



発行：せきもとさとづくり推進協議会

ワンチーム

伊達市教育委員会
生涯学習指導員 佐藤裕一

ラグビーワールドカップ日本大会でのサクラジャパンの快進撃で、日本中が感動に浸っています。

私は、現在、伊達市教育委員会の生涯学習指導員梁川地区担当として、高齢者学級講座・女性学級講座の助言及び支援を行っています。退職を堰本小学校で迎えたこともあり、堰本小での2年間は、児童・教職員・PTAの皆さんだけでなく、地域の皆様と一緒に良い堰本のために、ワンチームの心で過ごさせていただけたことから強く印象に残っています。

現在のさとづくり会長の渋谷さんは、その当時から防犯協会長でもありました。学校・交流館周辺を除草作業を行った際の渋谷さんの親方ぶりは、堰本の誇れるワンチームだと、そのリーダーシップと団結力には感銘を覚えたことがあります。

さて、生涯学習指導員としての私の仕事についての話をします。

生涯学習は、学ぼうとする受講生のものです。いろいろな交流館で開設している学級の受講生がどんな学習をしたのかを適切にとらえて、講座の内容について、具体的に事例を示しながら、講座担当の交流館の事務局の方の計画づくりのサポートをしています。

また、講座後の受講生のアンケートや反省記録から、来年度の年間計画の立案するプロセスや年間計画づくりにも助言・支援をしています。

生涯学習は、せきもとさとづくり推進協議会の一つの領域です。ですから、会長さんを中心に組織の中で理解と協力を得て、ワンチームで進める必要があります。

堰本のために、これからも協力を惜しみません。よろしくお願いいたします。



コピー料金改定のお知らせ

堰本地区交流館では、地区の皆様のご要望でコピーサービスを料金をいいただき行っています。

今回、プリンターを追加購入しましたので、料金を10月1日から左記のとおり改定いたしました。

なお、受付時間は、月曜日～金曜日（祝日除く）の午前9時～正午、午後1時～3時となっています。どなた様も是非ご利用ください。

サイズ	区分	金額	区分	金額
A4	モノクロ	4円	カラー	20円
A3	モノクロ	4円	カラー	20円

※従前は、モノクロ5円、カラー25円。
※両面コピーの場合は、2枚でカウントします。

※お詫び※

前号の鈴木茂信さんの記事で県立農蚕高校を農産と誤記載いたしました。また柳澤智蓮さんのコラムの中で、「一日ほんの五分でいいのです」の部分で「分」が抜けていました。お詫びして訂正いたします。

編集後記

今年もあと1ヶ月。ようやく広報紙第2号を発行できました。事業の取り組みを地域の皆さんと共有するため発行の継続を頑張りたいです。(H・M)

【編集員ひとこと】

ひざ上までの濁流に浸かりながらの避難で、水のちから強さと恐しさを実感しました。もう、しなくてもいい経験です。(S・K)
今年こそ身になる事をしなくてはと思いつつ、さほど身になる事もなく師走。一年がとにかく早いです。まずは健康で。(R・K)
今回の台風でパプリカを栽培していたハウスも長靴の半分くらい水が入ってしまいました。根腐れするかと思いましたが、作物って丈夫なんですね。収穫しています。(K・S)

表紙写真は、細谷・大館山を望む二井田境の東根堰に咲くヒガンバナ。(撮影：H・M)

活動報告

堰本グラウンドゴルフ大会 (令和元年9月8日)



寿健康センターのゲートボール場を使用して堰本3長寿会のグラウンドゴルフ大会が開催されました。蒸し暑い日でしたが皆さん元気にプレーしていました。

終了後はお弁当を食べながら和やかに懇親会を行いました。

成績は次のとおりです。(敬称略)

男性：優勝：佐々木松次 準優勝：大橋正喜 3位：佐藤正一
女性：優勝：小賀坂俊子 準優勝：佐藤光子 3位：霜山節子

第1回 男の料理教室 (令和元年9月20日)

橘茂樹氏を講師に迎えて「そば打ち体験」を実施しました(参加者10名)。



最初は「むずかしい」「うまくこねらん」とのことでしたが、時間がたつにつれ満足に行く仕上がりになりました。2回目の料理教室は12月15日に実施します。ぜひご参加ください。

女性セミナー「エコクラフト制作」(令和元年9月24日)



女性セミナーに手芸クラブが発足しました。今回のエコクラフトに限らず、いろいろな「手芸」を学ぶ予定です。

9月から毎月、制作に取り組んでいます。1作目は講師である小柳先生に作品レシピに沿って、あらかじめ材料を裁断していただきました。編むコツを覚えて2作目は、自分で巻物をほどいて測るところから始め、完成にいたりしました。色は違っても同じ編み方なのに、仕上がりはいろいろ。『次は・・・』と意欲がわく活動でした。

民謡との出会い



小賀坂保夫さん
(有)小賀坂シーリング
代表取締役

梁川町大関中沢地区在住
社長業の傍ら民謡の普及
にも力を入れている。

私が24歳の時、義母の影響で民謡を習い始め、日本民謡研究桃也会に所属し、当時岩手・宮城・福島3県で2千人を超える会員がいました。まだ若かった私は色々な大会に申込をし、何回予選落ちしてもめげず何回も挑戦しました。日本民謡大賞県予選・福島県民謡大会予選・福島市民謡大会等数多くの予選や大会等にエントリー。30歳過ぎた頃、日本民謡協会福島大会青年の部で代表となり、翌年両国国技館で東北代表として全国大会に出場し、また北海道民謡舞全国大会にも代表として出場しましたが、全国レベルは高く賞には入らなかつたのですが、良い経験となりました。47歳の時、福島中央テレビからの依頼で日曜日朝7時から30分放送で『クボタ民謡お国

めぐり』に3回出させていただきました。浄楽園・高柴デコ屋敷・民家園広瀬座。収録には1日ばかりで大変でした。間もなく40年を迎えますが、民謡は奥深く土地土地の人々によって歌い継がれてきた心の訴えであり作業唄でもあります。声が高く綺麗とか、低くて汚いとかの問題ではなく、如何に作業している状態を思い浮かべながら唄う事が大事かと思われまます。現在福島県民謡連盟東北支部長として頑張っておりますが、年々民謡人口が減りつつ有り、若い人達にも民謡の良さを知って頂ければ、幸いです。

好きな車に触れてこの道35年



齋藤学さん
(株)オートボ
ディサイトウ
代表取締役

梁川町細谷原地区在住
伊達町で修行後、独立開業し
現在に至る。

14年間、自動車関係の会社に勤め、平成10年12月に独立開業し、自動車の板金塗装を中心に仕事をしていきます。今年で21年となりますが、(株)オートボディサイトウ代表取締役として経営し、二人の従業員含め、様々な車種の修理をこなしています。また、昨年退職した妻が事務的な仕事を担っています。車の修理は、自信をもって修理しています。それを認めてもらったとき仕事をやって良かったと感じます。大変なのは、コンピューターでフレームを計測して合わせることで、大きくぶつかった車を直していくことが難しく、その分修理した時に充実感があります。最近ではセンサーのついた車も出てきているので、需要も修理もなかなか難しいところ



満足のお客様を求めています。

があります。仕事としては、車のキズ・ヘコミを修理し、下地処理をして塗装をします。簡単な塗装は5回ぐらいで、特殊な塗装は10回ぐらい重ね塗りをして、乾燥して仕上げます。お客様への引き渡しの際には、仕上がっているとお礼を言われた時には、苦労した分満足感を覚えます。年間約四百台の修理をこなしています。今月から息子が一緒に仕事をする予定です。後継者として育ててくれたらと期待を持ちつつ、車好きな親子で働けることが楽しみです。車好きの趣味が高じて現在の仕事につながっているのも、親子の共通点です。原町内会に住んで33年。現在57歳。8・5水害で五十沢から越えてきて、子ども3人のうち2人が結婚し、今年1月には初孫も生まれ、孫が来るとすっかりおじいちゃんの顔になります。楽しみは晩酌で、仕事も家庭も充実した日々が送れています。

あたり前

細谷寺住職 岡本英治

※熱・マッサージの間隔が短くを勧めました

あるお葬式でのこと。故人のお孫さんのお別れの言葉が心に響きました。亡くなった方は大正生まれのお婆さん。そのお孫さんは、先に亡くなったお爺さんとこのお婆さんによく面倒を見てもらった青年です。

お爺さんはいわゆる戦時体験のある方で、お孫さんが小さい頃、悪ふざけが過ぎるとかなり厳しく叱られたそうです。そんな時は決まってお婆さんがかばってくれた思い出を懐かしそうに語ってくれました。

また、彼が成長し、医療介護関係の仕事に就き、中々思うようにいかない時があった時のこと、お婆さんから「ご飯食べているか」「身体に気を付けてろよ」と声を掛けられ、気持ちの余裕がなく面倒臭そうに受け答えをしてしまったことを詫びながら、目に涙を溢れさせていました。

そしてお別れの言葉の結びに、お婆さんが自分を氣遣った「ご飯食べてい

るか」という、本当の意味が理解できなかったといいます。仕事を通じ、介護を必要とする人たちに接し、普通にご飯を食べる、健康である、それが如何に大変で有難いことか。お婆さんの何気なく自分に向けてくれた言葉の本当の優しさに気付いたといいました。

歌人・正岡子規の随筆、「病床六尺」に次のような言葉があります。

『自分は今迄、禅宗のいわゆる悟りということを誤解していた。悟りということは、如何なる場合にも、平気で死ぬる事かと思っていたのは間違いで、悟りということは、如何なる場合にも、平気で生きていけることであつた』、と書かれています。

福島県では震災後、また先ごろの台風災害など、様々に及びあたり前を失いました。

日常、普通が、実に尊いことである。亡くなったお婆さんの暖かく優しい言葉が、正しくお孫さんに伝わったものと感じました。



防災訓練を実施しました。

令和元年9月29日(日)、121名参加のもと伊達消防署北分署の職員のご協力のもと防災訓練を実施しました。

テーマは「数十年に一度の災害は明日かもしれません！」。

参加者は町内会役員、各種団体役員、堰本婦人会会員、一般の方などで、大勢の方にご協力いただきました。

地域防災を確立するための大切な訓練です。今後も毎年1回継続的に防災訓練を行っていく方針です。

□消火機訓練

前方に的があるのですが、なかなか思うようにあたりません。実際に火事になった場合は動揺してしまうので、それ以上に難しくなるのかもしれないね。



□炊き出し (メニュー:おにぎり、みそ汁、漬け物)

婦人会会員の方々にお手伝いいただき、あっ！という間におにぎりが出ていきます。協力体制は大切ですね。



ません！

□煙体

煙体

模擬でバニラの香りを勉強しました。

でも、実際にはパニックになる事でしょう。



も見え

勉強し

□心臓マッサージ

意識も呼吸もない場合、何もしないと時間の経過とともに生存率はものすごい速さで低下していきます。消防隊員が到着するまで続ける事が重要です。



橋敏昭さん トマト農家

梁川町新田 東前地区在住 妻、息子夫婦、孫5人との9人家族



結婚して間もなくハウスキュウリの栽培を始めました。オイルシヨックの時でした。やがて昭和61年にミニトマトの水耕栽培へと変え試行錯誤しながらもなんとか軌道に乗り、収穫したトマトをJAや直売所などに販路を広げることができました。約30年間、納品を滞ることなくすることで信用を得て、どうにか農業経営が順調になり、現在は息子夫婦に経営移譲をしています。

妻に誘われて『ボランティアクロスモス会』に仲間入りし、敬老会や小学校、社会福祉施設などの慰問をして、皆さんに喜んでもらっています。メンバーそれぞれに得意な芸を披

露する中で、私はマジックや玉すだれを披露してきました。ある日、演じる私の手をジッと見つめるお客さんを見て、『一輪車でお手玉をやったらもつと喜ばれるのでは?』と思

い、一念発起。ちようど還暦過ぎた1月に念願の一輪車を購入。早速庭で練習を始めましたが3月に大震災があり練習停滞、その後実際にペダルを踏み、手放しで乗れるまで5年がかかりました。

『乗れる』という自信を持ってから、余目小学校一輪車クラブの門をたたき、3年が経った現在では、ソ口で、ペアで、グループでの演技ができるようになり色々な大会にも参加できるようにになりました。

毎週練習にかけられるたびに「気を付けて行ってらっしゃい」と快く送り出してくれる妻の応援もあり、小学生と接することで刺激と若さをもらっているから、元気でいられると思います。

これからも、息子の農業経営の協力を惜しまず、一輪車乗りでケガせず、健康でいることが目標です。

台風 19 号被害状況（堰本地内）



新田鈴竹地内。伝樋川の側道も隠れてしまっています。



孫老内地内。ゴミを見ると 13 日未明には道路の数 10 センチ上まで水が来たものと思われます。



新田小松林の阿武急陸橋から北側の状況。右が大正寺地区、左が保原二井田地区です。



新田東前地区西側の伝樋川。川はどこなのかわかりません。



上原町内会では地域住民一斉に被害場所の泥上げをしました。想像以上の量で大変な作業でしたが一生懸命力を合わせて片付けることができました。



堰本地区交流館での被災者の方々の最終日。婦人会の方がおふかしと豚汁を作り皆様に食べて頂きました。また、農家の方々にも随時ブドウ・キュウリ・パプリカ・漬け物・ミニトマト等を提供いただきました。ありがとうございました。

近年まれに見る大雨を伴った台風 19 号の被害の写真です。撮影日は 10 月 13 日曜日、午前 5 時半



大関中ノ内橋より 200m ほど上流。危険を感じる濁流でした。アスファルトが無惨にも・・・



大関笠石地内、小学校手前と JA の間、右は笠石観音。道路は軽自動車を通れる程度でした。



大関間野地内、護岸工事されていない部分があと少しで完全に壊れるところでした。



大関東木田橋から東側を撮影。小屋の基礎部分が損傷しています。



右の大日橋の手前から北に通る川沿いのアスファルト道路は完全に寸断です。



大関大日橋から東側を撮影。こちらは完全に堤防が破壊されています。